横穴墓の出現

Ⅰ-23-①

６世紀後半から７世紀ごろになると、有力者の墓は丘陵斜面（きゅうりょうしゃめん）の凝灰岩（ぎょうかいがん）の柔（やわ）らかい岩を掘り込んで作る横穴墓（よこあなぼ）が多くつくられるようになります。横穴墓は、入り口を再（ふたた）び開けて遺体を葬（ほうむ）ることができ、これまで一人のためにつくられることが大かった葬り方にも変化がおきました。
この名取では、熊野堂（くまのどう）横穴墓群や山の前（やまのまえ）横穴墓などがこの時期の墓にあたります。

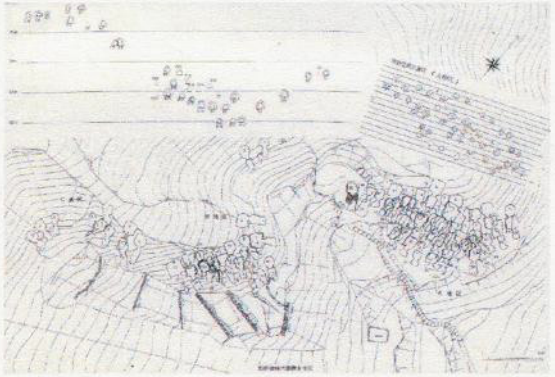
Ⅰ-23-①

熊野堂横穴墓群

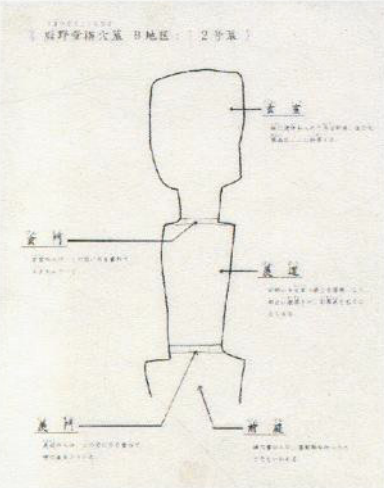
熊野堂横穴墓群は、岩口上（いわくちかみ）、五反田（ごたんだ）、一二神（じゅうにじん）地区にわかれて分布（ぶんぷ）しています。平成元年・６年にこの横穴墓群の岩口上地区の発掘調査が行われました。その結果、中の構造は玄室（げんしつ＝遺体を置くところ）がアーチ型やドーム型で羨道（せんどう＝玄室への通路）が短（みじか）いものが多いことがわかりました。人骨（じんこつ）が多く出土しており、有力者の家族が代々、埋葬（まいそう）されたようです。刀（かたな）やアクセサリーなどの副葬品（ふくそうひん）も見つかっています。ここで見つかっている横穴墓は、７世紀初め頃（古墳時代末）から８世紀（奈良時代）にかけてのものです。

Ⅰ-23-②-a

Ⅰ-23-②-b



Ⅰ-23-②-c



Ⅰ-23-②-d

Ⅰ-23-③